

老いてなお走り続ける夫婦駒

寺畑 俊子

はかどらぬ断捨離猛暑のせいにして

竹本 タエ子

五十年今なら言えるあの言葉

田中 たづ子

守られて長寿社会を闊歩する

寺畑 末雄

大あくびかくすマスクの休み明け

蓑島 啓子

おいてなおはしりつづけるみようとこま

てらはた としこ

はかどらぬだんしゃりもうしよのせいにして

たけもと たえこ

ごじゅうねんいまならいえるあのことは

たなか たづこ

まもられてちょうじゅしゃかいをかつぽする

てらはた すえお

おおあくびかくすますくのやすみあけ

みのしま けいこ

爽やかや寛解ですと告げられて

田中 孝利

旧仮名の母の手紙や虫しぐれ

林 保江

月光や癌病む友と長電話

林 美津江

橋伝ひ向こう岸迄葛の花

山本 隆子

油照蔭から蔭へ瘦せた猫

馬場 精作

さわやかやかんかいですとつげられて

たなか たかし

きゅうかなのははのてがみやむししぐれ

はやし やすえ

げっこうやがんやむともとながでんわ

はやし みつえ

はしつたいむこうぎしまでくずのはな

やまもと たかこ

あぶらでりかげからかげへやせたねこ

ばば せいさく

手鏡に吾が名を入れし能登の塗師
いかに在わすと曇りを拭う

河野 美津子

涙ふき心の修理しています
つぎ布当ててなおれば笑顔に

山口 正子

誕生日その日の話を母に聞く
生まれた喜び夏空の青

賤間 星

三十で父となる甥朝まだき
ミルクを作る妻を手伝う

河野 敬子

見いつけた桃の葉隠れそこかしこ
一番取りにかぶりつく孫

矢田 悦子

てかがみにわがなをいれしのとのぬし
いかにあわすともりをぬぐう

かわの みつこ

なみだふきころのしゅうりしています
つぎぬのあててなおればえがおに

やまぐち まさこ

たんじょうびそのひのはなしをははにきく
うまれたよろこびなつぞらのあお

ざいま せい

さんじゅうでちちとなるおいあさまだき
みるくをつくるつまをてつだう

かわの としこ

みいつけたものはがくれそこかしこ
いちばんどりにかぶりつくまご

やた えつこ

自由律俳句

笑顔が美味しいおばあちゃんの食堂

岡村 裕司

亡き母の帽子を被り盆参り

賤間 由美子

ポツポツと灯り消えて山の静か

松下 満江

まだ叶えたい夢がある

星井 香筍

どうでもいいさ人の事などうろこ雲

佐川 智英実

えがおがおいしいおばあちゃんのしょくどう

おかむら ひろし

なきははのぼうしをかぶりぼんまいり

ざいま ゆみこ

ぽつぽつとあかりきえてやまのしずか

まつした みつえ

まだかなえたいゆめがある

ほしい こうじゅん

どうでもいいさひとのことなどうろこくも

さがわ ちえみ